

微生物による **コナジラミ類・ミカンキイロアザミウマ** の防除

マイコタール®

マイコタール®はアリストライフサイエンス株式会社の登録商標です。

バーティシリウム レカニ水和剤 500g入

有効成分及び含有量:バーティシリウム レカニ孢子… 3.0×10^9 spore/g



1 散布によりバーティシリウム レカニの孢子がコナジラミ・アザミウマの体に付着

2 付着した孢子が発芽し、体表面の皮膚を貫通してコナジラミ・アザミウマの体内に侵入

3 コナジラミ・アザミウマ体内の水分・養分を利用して増殖

4 害虫死亡



特長

- 有効成分である微生物(昆虫病原性糸状菌バーティシリウム レカニ)は薬剤抵抗性のついたコナジラミ類・ミカンキイロアザミウマに感染し、従来の殺虫剤と同等の高い防除効果を発揮します。
- JAS法に適合し農薬散布回数にカウントされませんので、有機栽培・特別栽培農産物等でもご使用いただけます。
- 好条件下では、バーティシリウム レカニは感染された害虫の死亡後、体外で孢子を形成します。孢子は水滴や徘徊する害虫に付着して広がるので、他の害虫へ二次的に感染が広がります。
- マルハナバチ・ミツバチ・天敵などへの影響が少ないので、環境に優しい剤です。

適用害虫と使用方法

(2015年9月現在の登録)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用流量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	パーティシリウム レカニを含む農薬の総使用回数
野菜類 (施設栽培)	コナジラミ類	1,000倍	150~300ℓ /10a	発生初期	-	散布	-
マンゴー (施設栽培)	チャノキイロアザミウマ		200~700ℓ /10a				
きく (施設栽培)	ミカンキイロアザミウマ		150~300ℓ /10a				
トルコギキョウ (施設栽培)							

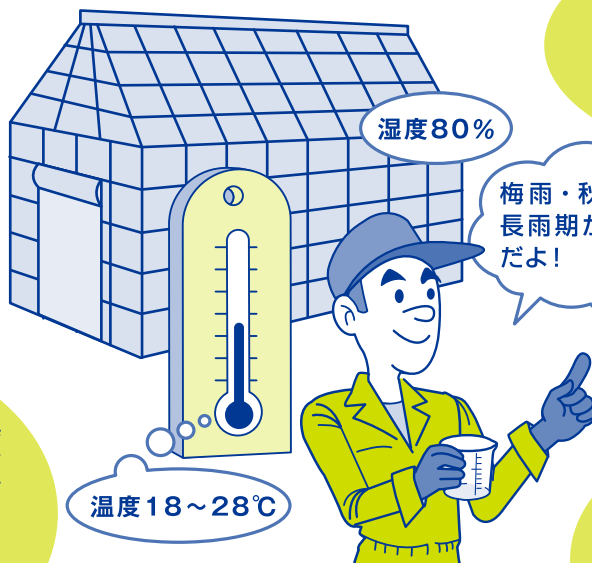
★上手な使い方★

散布液の調製

希釈には地下水などをご利用ください。水道水の場合は一日くみ置きしてからお使いください。孢子の発芽をうながすため、散布2~4時間前に本剤の所定量に少量の水を加えて懸濁させます。その後、所定量の水を加えて十分にかきまぜ、速やかに散布します。

散布適期

春から秋の湿度が高い時期、特に梅雨や秋雨等の長雨期の散布が効果的です。高温・高湿度で管理される促成ピーマン等では冬場もお使い頂けますが、他の作物では冬期はボタニガードのご利用を推奨します。



散布時間

散布は午後に行い、ハウス内の湿度を80%以上に保ちます。ただし、夜間葉が濡れたままでは病害等を助長するおそれがありますのでご注意ください。

タイミング

感染効果が得られるまで1週間~10日程度必要となりますので、害虫の発生初期に1回目の散布をします。

箇所と回数

特にコナジラミ類やミカンキイロアザミウマが好んで生息する葉裏や花、生長点に十分にかかるようにし、7日程度の間隔で合計2~3回散布します。

他剤との混用は下記の影響表をご参照ください。ただし散布24時間以後であれば影響のある薬剤も使用できます。

マイコタールに対する殺虫剤、殺菌剤の影響

影響のある殺虫剤、殺菌剤	オマイト、スプラサイド、スミチオン、ダイアジノン、マイクロデナボン、アリエッティ、アンビル、イオウフロアブル、オーソサイド、ジマンダイセン、ダイセン、ダコニール、チウラム、チルト、銅剤、バイコラル、パスポート、モレスタン、ラリー
やや影響のある殺虫剤、殺菌剤	オルトラン (水)、ダズバン、ダニカット、テデオ、マラソン、サブロール、デラン、バイレト、ベンレート
影響の少ない殺虫剤、殺菌剤	アクテリック、アグロスリン、アディオ、アドバンテージ (粒)、アドマイヤー、アブロード、エビセクト、カーラ、カスケード、コロマイト、ジメトエート、DDVP (乳)、ディプテックス、デミリン、トリガード、ニッソラン、ハクサップ、パーマチオン、BT剤、ベジホン、ペイオフ、マイトコーネ、マシン油、マトリック、ランネート、ルビトックス、ロディー (乳)、スミレックス、トップジンM、パンソイル灌注、フルピカ、ルビゲン、ロブラール

日本バイオロジカルコントロール協議会の現時点での資料を元に表を作成。影響のある薬剤との混用散布やマイコタール散布前後の使用は避けてください。やや影響のある薬剤との混用散布は避けてください。表中に記載のない薬剤は影響が不明ですので、混用散布は避けてください。

その他の注意事項 (抜粋)

- トルコギキョウに使用する場合、薬液の付着により葉のクチクラ層のワックスが溶脱することがあるので、収穫間際の散布は避けてください。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意してください。
 - ①ミツバチの巣箱及びその周辺にかけないようにしてください。
 - ②受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園では使用を避けてください。
 - ③関係機関 (都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等) に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めてください。
- 通常使用濃度より高濃度ではタイリクヒメハナカメムシに影響を与えるおそれがあるとの報告があります。

【保管】 本剤は入手後冷凍は避け、食品と区別して冷暗所 (約5℃) に保存し、開封後は早めに使いきってください。

農薬は正しく使しましょう。 ●ラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。 ●空袋 (空容器) は圃場などに放置せず、適切に処理してください。

アリスタライフサイエンス株式会社
〒104-6591 東京都中央区明石町8-1
TEL.03-3547-4415 FAX.03-3547-4695
<http://www.agrofrontier.com>